

令和6年度第3回市民活動センター評価委員会 摘録

日 時：令和6年9月12日（木）午後1時30分～午後3時40分

場 所：京都市役所分庁舎地下1階 会議室

出席者：

（委員、敬称略）東郷 寛（近畿大学経営学部准教授）＜委員長＞
城戸 英樹（立命館大学政策科学部教授）＜副委員長＞
杉原 恵（一般社団法人 my turn 代表理事）
鈴木 ちよ（市民公募委員）
杉井 大治（公認会計士）
森本 純代（一般財団法人藤野家住宅保存会理事）

（事務局）京都市文化市民局地域自治推進室

地域コミュニティ活性化

・北部山間振興部長 平井 淳史

市民活動支援課長 小林 寛

市民活動支援係長 別所 隆男

担当 高山 玲子、板東 瑞帆

傍聴者：なし

取材者：なし

議 事：（1）令和5年度京都市市民活動総合センター評価報告書の検討
（2）令和5年度京都市いきいき市民活動センター評価報告書の検討

開催概要

1 開 会

2 議 事

（1）令和5年度京都市市民活動総合センター評価報告書の検討

事務局から「令和5年度市民活動総合センターの管理運営についての評価報告（案）」について概要を説明後、評価項目ごとに記載内容を検討したうえで、全体の評価を表す一文の検討を行った。

※ 各項目に対する委員個人の評価や意見を共有したうえで議論を進めた。

【個別項目評価】

評価報告書案の記載内容について、委員から特段の意見はなかった。

【全体評価】

総合センターの管理運営について各委員から高評価が得られ、全体評価を端的に表す一文については次のとおりとした。

「京都市が提示している業務の基本方針及び指定管理者が提案した10の運営方針の全ての項目において高いレベルの水準が保たれ、安定した管理運営と充実したサービス提供が行

われていることを評価する。また、現状に甘んじることなく、利用者目線で時勢に応じたきめ細かなサービスを提供し、新しいことに挑戦する姿勢を高く評価する。」

(鈴木委員)

コロナ禍を経て変わった現状をきめ細やかにアップデートされている。リニューアルというのではなく、現状を踏まえたうえで、利用者目線で使いやすいアップデートを心掛けていると感じる。現状把握のための情報収集能力、ヒアリング能力が高いと感じる。これに合わせて細かく変えていっている。

(2) 令和5年度いきいき市民活動センター評価報告書の検討

事務局から「令和5年度いきいき市民活動センターに係る管理運営についての評価報告(案)」について概要を説明後、「2 各センターの評価」及び「3 まとめ」の記載内容の検討を行った。

【各センターの評価】

＜北いきいき市民活動センター＞

評価報告書案の記載内容について、委員から特段の指摘はなかった。

＜岡崎いきいき市民活動センター＞

(鈴木委員)

利用料金制導入以降、利用者が減少している。利用を増やすには、近隣で活動をしている人が、何かしら優先されるような、いきセンに通う甲斐があるというものを打ち出すことができればよいのではないか。常連の方を大切にする一方、新規利用を開拓するにはどうしていけばよいか。

(東郷委員長)

まずは利用団体からの声や提案を取り入れるということになるだろうか。

(鈴木委員)

ニーズがどこにあるかというのは、利用者へのヒアリングが必要だと思う。

＜左京東部いきいき市民活動センター＞

評価報告書案の記載内容以外、特に指摘なし。

＜左京西部いきいき市民活動センター＞

(森本委員)

近所の人が気負わず参加できる場所がいい。

＜中京いきいき市民活動センター＞

(鈴木委員)

ここ数年でかなり良くなった。フットワークの軽さなどが伝わって信用を得て、企業に紹介してもらえる部分があるのではないかな。常に広報して何かを募集している感がある。

(東郷委員長)

他のいきセンでも見習う部分があるように思う。

料理室はイベントで使用すると、こういった場所を借りられるということを知ってもらえて、その後の利用に繋がるのではないかな。

<東山いきいき市民活動センター>

(東郷委員長)

今後も他のいきセンに良好事例の共有をしてほしい。

P O S レジのデータ分析について追記してほしい。

<下京いきいき市民活動センター>

(事務局)

収支状況の評価について、記載誤りのため修正する。

<吉祥院いきいき市民活動センター>

評価報告書案の記載内容以外、特に指摘なし。

<上鳥羽北部いきいき市民活動センター>

(森本委員)

近くにある吉祥院いきセンへの行き方の地図を掲示し、実際に吉祥院に行ってみた利用者がいた事例は面白い。吉祥院いきセンと互いの強みを生かして、例えば吉祥院の料理室で上鳥羽北部のエコクッキングを実施してみる、吉祥院を利用する大人が上鳥羽北部でエコを学ぶなど、協力しながら事業を展開していくと面白いと思う。

<上鳥羽南部いきいき市民活動センター>

(鈴木委員)

「講座型・一方方向の事業が多い」という指摘に対しては真摯に改善しようとする意欲は感じられるが、「双方向」の意味を若干誤解しているように思う。開催する講座の中で質疑応答することが双方向なのではなく、市民や活動団体等のやりたいことや解決したいことなどを支援することが双方向であり、いきセンにはそのような事業展開を期待している。地域が抱える課題やニーズ等の調査が不足していると思われるため、隣接するこども園などに対して聞き込み等を行って課題の把握に努めてほしい。

(森本委員、鈴木委員)

地域住民の母数が少ないのであれば、いきセンに興味をもった人や周辺企業で働く従業員などの取り込み、彼らのやりたいことや社会活動等を応援するような事業を展開するとよいと思う。また、企業の強みを生かした社会活動と地域住民の課題がうまくマッチングできれば、新しい事業につながるのではないかな。中京いきセンで実施した、ソフトバンクのCSR活動による高齢者向けスマホ講座などは参考になるだろう。

(杉原委員)

こども園に隣接しているため、いきセンの前を親子連れで通る人は多く、人的資源はあ

と思う。まだまだいきセンの認知度が低いと思われるため、入口（歩道）付近に掲示板を出すなどして、どんな施設であるかをアピールしたり、親子向けの事業などを展開していけば新たな利用に繋がるのではないかな。

（事務局）

収支状況の評価について、記載誤りのため修正する。

＜久世いきいき市民活動センター＞

（東郷委員長）

利用率向上のため、他のセンターの取組を参考に、利用者目線で、音楽ができること、鏡が入ったこと、空室情報などを定期的に高頻度で発信していく必要がある。

＜醍醐いきいき市民活動センター＞

（城戸委員）

センター前の広場を駐車場として利用できないのか。

（事務局）

確認するが、常時使用するのは困難だと思う。

＜伏見いきいき市民活動センター＞

評価報告書案の記載内容以外、特に指摘なし。

【まとめ】

評価報告書案の記載内容以外、特に指摘なし。

（以上）